

## Q6

### 福島県内よりも、仙台湾で観測された津波のほうが大きいのはなぜ？

断層の方向との関係により、津波の主なエネルギー伝播方向が仙台湾に向かいました。これを指向性と呼びます。具体的には、今回の断層の短軸方向に仙台湾が位置しております。さらに、仙台湾の水深が浅く遠浅の地形であり、半閉鎖性の湾であるために、津波が大きくなりやすかったことがあります。他方、福島は波源に近いものの、波源の長軸方向に位置するため、エネルギーの指向性が弱く、顕著に津波が大きくならなかつたと考えられます。

(災害リスク研究部門 今村文彦教授・サッパシーアナワット准教授、寄附研究部門 安倍祥助手)

断層の方向との関係により、津波の主なエネルギー伝播方向が仙台湾に向かいました。これを指向性と呼びます。具体的には、今回の断層の短軸方向に仙台湾が位置しております。

(災害リスク研究部門 今村文彦教授)

1つの原因として断層の向き(走向)が考えられます。今回は東北東-西南西の走向でした。この断層の向きに直交方向に向かって地盤は大きく変動しますので、津波も追随します。仙台湾は直交方向にありました。

(災害理学研究部門 遠田晋次教授)